

(様式 5)

教師力向上支援事業派遣研修報告書

- 1 所属・職・氏名 富山県立呉羽高等学校・教諭・近郷 智絵
- 2 研修期間 令和6年11月27日(水)～令和7年3月2日(日)のうち3日間
- 3 調査研究課題 魅力ある教育課程編成のための教科横断的な学びの在り方・実践を伴った授業実践から生徒の主体性を引き出す指導の在り方について
- 4 研修機関等 新渡戸文化高等学校(協力校:ドルトン東京学園)
- 5 研修の概要

以下の①～③の日程で研修を実施した。

①令和6年11月27日(水)新渡戸文化高等学校:探究活動の視察

②令和7年 1月21日(火)新渡戸文化高等学校:教科横断的な学びについての視察
(研修協力校:ドルトン東京学園高等学校)

③令和7年 3月 2日(日)新渡戸文化高等学校:学校行事(スタディフェスタ)の視察

(1) 生徒の主体性を伸ばす学校づくり・カリキュラムについて

新渡戸文化高等学校(以下、新渡戸)では、2019年から学校改革を始め、自分や周囲の人々の幸せを生み出すことができる“Happiness Creator(しあわせ創造者)”の育成を教育目標に掲げている。週4日の通常授業「コアラーニング」(基礎学習)では、ICTを活用し個別最適化を図りながら、自律した学習者を育てることを目標に、対話型の授業を実施している。また、毎週水曜日が「クロスカリキュラム」(教科横断型授業)となっており、各生徒が自己の設定した課題に応じて丸1日を自由にデザインする形で行われる。

また、ドルトン東京学園(以下、ドルトン)は、2019年の創立から「自由」と「協働」の原理に基づいて“Active Learner(自律的な学習者)”を育成するための学習者中心の教育メソッドを用いている。高等部の卒業に必要な取得単位数は、74単位としている。必修科目以外は選択科目として自由に選ぶことができ、卒業条件の74単位を修得していればあとは自由となる。「選択する」ことで、学習者としての責任感が生まれ、主体性を伸ばすことに繋がっている。

両校において、学習者である生徒が自らの学びを設計している。教師は生徒の成長を信じて、個々の学びを見守る姿勢を大切にしている。

(2) 教科横断的な学び(クロスカリキュラム)、「総合的な探究の時間」及び「探究活動」を通した生徒の主体性を引き出す指導について

新渡戸では、水曜日のクロスカリキュラムで教科横断的な学びの場を設けている。ドルトンでは、学習内容に基づいたアサインメントと様々な課題に取り組むラボラトリーの中でクロスカリキュラムが実施されている。多様な場で生徒が探究活動を行う中で、自ら設定した研究課題に対し多角的な視点から検証する過程で自生的に教科横断的な学びが生じる教育活動が実践されていた。

(3) 教科横断的な学びの在り方・実践を伴った授業実践について

新渡戸では、「探究活動」の発表の場として、10月の学園祭と3月のスタディフェスタの2回を設定している。発表前の教員による確認・指導、リハーサルを実施せず、「教員が整えないこと」を指導方針としている。立案(テーマ設定)、実践、発表まで、外部との交渉から共同プロジェクト、研修旅行(スタディツアー)の実施を含めて全て生徒が自ら行う。あくまで担当教員は、相談・見守り役に徹することで、学校外の人や社会とのつながりが生まれている。このクロスカリキュラムを通して、①現場で実際に「大人と会う」、そしてコミュニケーションをすること、②社会とつながって社会貢献することが、生徒が成長を感じられる主な要因となるという新渡戸による検証データがあり、その教育的効果を裏付けている。

(4) 魅力ある教育課程編成のために

新渡戸やドルトンによる生徒が主体的に学ぶ学校づくりは、生徒の「自ら学ぶ力」、生涯学習者としての「生きる力」の育成に繋がっている。教師が生徒の成長を信じ、自らも生徒とともに学び続けることで、対話的で協働的な学びが生まれ、生徒の自己肯定感を高める指導ができるのではないかと考える。探究的な学びを通して学びの楽しさを知り、個々の生徒が自分らしく学びを深め、卒業後も学びを継続できるよう魅力ある教育課程編成のために活かしていきたい。